

報 告 書

報告日 令和8年5月8日

日 時	令和8（2026）年4月16日（木）午後2時00分から午後4時00分まで
場 所 （会 場）	柏崎商工会議所
概 要	産業建設常任委員と柏崎商工会議所との意見交換会
所 感 等	【三宮直人委員長】 産業建設常任委員会の柏崎商工会議所（以下、会議所）との意見交換は、一昨年の柏崎青年工業クラブとの意見交換に引き続き、今回は商業者との意見交換を行った。当初、どのように進めるか思案していたが、会議所から「あきんど協議会の若手メンバーが2024年からあきんど座談会と称して意見交換を行っているので、その状況も確認しながら今後の取組についてやったらどうか」と提案を受け今回の開催となった。また、会議所からファシリテーターも配置していただいたり、市内で製造販売しているお茶やお菓子なども用意いただきリラックスした中で進められたことは良かったと思う。 意見交換の中では、三条市の一ノ木戸商店街の視察を通して、 ・若い人たちだけで街を作っているのではなく、元々ある老舗店と若い世代が共存し、一つの街並みとして完成していた ・店舗を「ギュッと」集約させることで、来街者が回遊しやすい環境を作ることの重要性 ・「空き家マップ」の整備や物件の検索から相談・借入までの窓口が明確化 ・駐車場の整備 などの意見があった。一部の出席者からは、柏崎での事業スキームを三条市でも展開するとの話があり、このスピード感や展開力こそが若い世代の強みと理解した。 私の方から今後の活発な官民投資の見込みについて説明した。今は、本来柏崎が得る富が周辺自治体に流れているのではないかと話した。活発な官民投資を好機と捉え自社の商売に繋げてほしくて説明したが、思ったような反応はなかった。おそらく円安や中東情勢などの影響で日々の自店の経営が厳しく「追い風以上に向かい風」が強くなっている表れかと思う。 今回で終わらず継続した意見交換や交流の場が必要と考える。 【西川弘美副委員長】 柏崎商工会議所のあきんど協議会若手メンバーとの座談会を開催し、「共創関係の構築～共通のチャンスを知る～」というテーマをファシリテーターの春川氏から提示いただき、意見交換を行った。 冒頭では、協議会メンバーが三条市の一ノ木戸商店街を視察したことから、柏崎市

との違いなどを教えていただいた。一ノ木戸商店街ではエリアを明確に設定し、外部人材を積極的に受け入れながら情報発信や店舗連携を強化していることに比べ、柏崎市においては、情報発信の弱さや外部との関係性の希薄さ、駐車場や回遊性の不足などの課題が指摘された。委員会としても、事前に実施した街歩きの中で、来訪者向けの街歩きマップが整備されていない現状に気づいていたところであった。他地域では当たり前存在する情報ツールが不足していることは、回遊性や滞在価値の向上において大きな課題であると感じた。

次に、三宮委員長から、今後市内で予定される官民の事業を紹介し、「人の流れは生まれても消費につながる場が不足している」「受け皿づくりの重要性」などの話があると、メンバーからは期待感はあるものの「物価高騰や人口減少による経営環境の厳しさ、価格転嫁の難しさ」があるといった現場の切実な声が聞かれた。

しかしながら、メンバーからは中心市街地活性化に関連し、商業だけではなく、移住者や若年層の受け入れに関する具体的な提案もあり、子育て支援の充実や情報発信の強化、地域に根づく仕組みづくりの必要性が提案された。特に、気軽に立ち寄れる店舗が交流や相談の拠点となり得るという視点は、今後のまちづくりにおいて重要な示唆であると感じた。

今回の意見交換を通じ、若手事業者が持つ危機感と可能性の双方を強く認識したところであり、今後はこれらの声を施策へとつなげていくことが求められる。なお、参加者には今後の市民意見交換会への参加も呼びかけていきたい。

【山崎智仁委員】

今回の意見交換では、若い事業者の積極的な試みや、三条市などの他市の取組を視察した学びから柏崎市に活かしたい点などについて聞くことができた。

情報を交換していく中で、中心市街地に足を向ける要因として駐車場が不足している点が挙げられた。現在進んでいる柏崎セントラルガーデン整備事業において200台余り確保されている駐車スペースの有効活用が必要であると感じた。公共駐車場として利用しやすい活用方法について調査・検討が必要である。

【佐藤正典委員】

柏崎あきんど協議会に所属する事業者との「かしわざき商業活性化座談会」に委員として参加した。商業事業者側は、あきんど協議会として、既に様々な視察を行い、事例を学んでいるとのことである。

一例として、コンパクトに商店街を形成することのメリット、空き家対策と連動した取組、まち歩きマップの有効性などが紹介された。

また、うまくいっている商店街は、外部の人間を呼び込んでキーパーソンの役割を担っていたり、あるいは、情報発信がきちんと機能しているとのことである。

意見交換では、事業者側から様々な課題について率直に述べられた。「柏崎の特徴として外に出たがらない」「中心市街地には駐車場が無く、買い物客や飲食客のいずれの獲得においても困っている」「物価高騰が厳しい」などである。

では、チャンスをつかむにはどうしたらよいか？ということについてである。

「市内の消費が減っている現状から、外に向けて売っていくしかない」「柏崎のまちの方向性には色が無いため、これからは覚悟を決めて、明確な特徴、尖った施策を打ち出していく必要がある」「高校生、大学生が集まれる場所が絶対に必要である」などの意見が出された。

今回の座談会を通して感じたことは、商業ビジネスを成功させる絶対的な手法は、そもそも無く、事業者それぞれが自身の業種業態にあった戦略をしっかりと立てて、商いに結び付く最新のトレンドなどの情報を常にキャッチしておくことにあるのではないかな。

柏崎市及び柏崎商工会議所が、そうした、やる気のある事業者に対して、集中的に適切な支援や助言を行うことが必要であり、漠然とした商店街振興策というよりは、消費者にとって魅力的な店舗が、2店舗、3店舗と増えてくることが、活気を取り戻すための最も近道なのではないだろうか。

【佐藤和典委員】

産業建設常任委員会は、柏崎商工会議所あきんど協議会の若手メンバーと「かしわざき商業活性化座談会」を開催した。三条市・一ノ木戸商店街の視察を踏まえ、老舗と若手の共存、店舗の集約による回遊性向上、空き家活用、情報発信強化などの重要性が共有された。一方、柏崎の課題として、駐車場不足・街歩きマップの未整備・外部との関係の希薄さが指摘された。事業者からは物価高騰や人口減少による経営環境の厳しさが率直に語られた一方、移住者受け入れや子育て支援、尖った施策の必要性など前向きな提案も出された。一時的な集客にとどまらず、回遊・滞在・継続来訪につながる仕組みづくりと、事業者・観光・行政が連携した戦略的取り組みが不可欠である。今後も現場の声を施策へ結びつける継続的な対話が求められる。

【星野正仁委員】

令和8年4月16日、柏崎商工会議所において開催された「かしわざき商業活性化座談会」に参加し、市内で事業を営む若手経営者を中心とした参加者の皆様から、現在の取組や課題、今後の柏崎の商業の方向性について意見交換を行った。座談会では、各事業者が現在取り組んでいる事業や、地域での挑戦、また商業を取り巻く環境の変化について率直な意見が示された。特に、地域に根差した店舗づくりや新たな事業展開、SNS等を活用した情報発信など、従来の枠にとらわれない取組が進められている一方で、人口減少や人手不足、購買行動の変化など、地方都市共通の課題に直面している現状も共有された。イベントや観光施策などによる一時的な集客だけではなく、来訪者が市内を回遊し、継続的に訪れる仕組みづくりが重要である。また、交流人口の増加を地域経済に結びつけるためには、事業者同士の連携や、観光・地域資源との結び付け、さらには行政施策との方向性の共有が必要である。

今回の座談会を通じて強く感じたことは、地域の商業を支えている事業者の皆様が、それぞれの立場で柏崎の将来を真剣に考え、挑戦を続けているということである。一方で、人口減少が進む地方都市においては、従来型の商業の枠組みだけでは持続が難しい局面に入っており、地域全体としての戦略的な取組が必要であることも改めて

認識された。議会としても、こうした現場の声を十分に踏まえながら、中心市街地の整備や観光施策、交流人口創出の取組が、地域の事業者の活力向上につながるものとなるよう、今後の施策の在り方を丁寧に確認していく必要があると感じた。今回の意見交換で得られた知見は、今後のまちづくりや産業振興を考える上で非常に有意義なものであり、引き続き事業者の皆様との対話を重ねながら、柏崎の商業の活性化に向けた取組を進めていくことが重要であると考えている。

